

知識と知恵について

親子関係や人間関係を良好に保つのは、大変難しいことです。私たちはどのようにしていけば円滑な関係を築くことができるのでしょうか。ある本によりますと、『知識と知恵』が重要だと書いていました。知識と知恵というとは何か難しく感じてしまいますが、具体的な話しも載っていましたのでご紹介いたします。

地方に住んでおられる年配の方が、用あって上京されました。その時に、タクシーを利用されました。タクシーの運転手に、行き先を告げてもブスツとして、返事もしない。そして乱暴に車を発進させたそうです。挙げ句の果てに、その運転手と言うには「わしら、お客さんかて手荷物なみだから」と言ったそうです。皆さんならそんな運転手にぶつかった時、どうしますか？私だったら、「何を言う。失礼じゃないか。俺はただで乗ってるんじゃない。ちゃんと料金払って乗っているんだ。君にとっては大事な客のはず、その客に向かって“手荷物”とはどんな了見で言っているだ」と怒鳴りつけるでしょう。急いでいるからタクシーは降りないとしても、車のナンバーや運転手の名前を覚え、タクシー会社に電話するかもしれません。これが現代人としての常識だと思いますし、自分の権利を守るための知識だと考えます。しかし、この方は、「運転手さん、この荷物だいぶ古くなっているから、壊れないように運んでね」と言ったそうです。冷たくトゲトゲしかった車内の雰囲気が、一気に和やかになったそうです。そしてブスツとしていた運転手が、逆に自分の悩みまで話したそうです。

私は、この対応の仕方を知って、これこそ人生の知恵だなあと思いました。「ただで乗ってるんじゃない。僕の払う金は、君の生活費の一部じゃないか」という言葉は、理屈として筋が通ってる。理論的に正しい。しかしその内容は、知識ではあっても知恵ではないと、私は反省しました。知識は、問題を合理的に、言い換えれば権利と義務との関係で解決します。それは、科学を発展させ、生活を豊かにかつ便利にもします。しかし、人間の心までは変えてくれません。ところが、この年配の方の知恵は、運転手の心を和やかにし、心を純化しました。

私たちは学校での学習を通して、知識を身に付けます。しかし、その知識は、やがて知恵にまで高められなくてはならないと考えます。

チベットのラマ教の教主ダライ・ラマは次のように言っています。

『火が火を消すことができないのと同じように、怒りが怒りを消すことはできません。火は水によって消されるのと同じように、怒りは優しさによって消すことができるものです』素晴らしい知恵に満ちた言葉だと思います。

1月31日（土）に漢字能力検定が行われます。

来週の1月31日（土）は、漢字能力検定試験実施のため、特別時間割となります。降園・下校時間が変わります。お迎えの時間を間違わないようにお願いします。

登校完了	8 : 30	6校時	12 : 50 ~ 13 : 30
HR	8 : 30 ~ 8 : 40	さくら普通降園	12 : 20 ~
1校時	8 : 40 ~ 9 : 20	さくら延長降園	13 : 15 ~
2校時	9 : 25 ~ 10 : 05	もみじ降園	13 : 25 ~
3校時	10 : 10 ~ 10 : 50	小・中学部 HR	13 : 30 ~ 13 : 35
4校時	10 : 55 ~ 11 : 35	一般生徒下校	13 : 35
5校時	11 : 40 ~ 12 : 20	漢字検定	14 : 00 ~
昼食	12 : 20 ~ 12 : 50		